

三井住友・ 株式アナライザー・ オープン

【運用報告書(全体版)】

(2024年4月23日から2024年10月22日まで)

第 54 期

決算日 2024年10月22日

■当ファンドの仕組みは次の通りです。


商品分類	追加型投信／内外／株式
信託期間	無期限（設定日：1997年10月29日）
運用方針	日本の取引所に上場している株式を主要投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行うことを基本とします。
主要投資対象	日本の取引所に上場している株式
当ファンドの運用方法	<p>■主として、日本の株式を主要投資対象とします。また、純資産総額の30%を上限に、海外の優良企業の株式の組入れも行います。</p> <p>■外貨建株式に投資する場合は、原則として対円での為替ヘッジを行います。</p> <p>■日本経済再生の牽引役になると思われる企業の株式を中心に投資します。</p> <p>■銘柄選択にあたっては、財務内容のみならず技術力、市場優位性、経営方針等を重視し、総合的に判断します。</p> <p>■株式の組入比率は、株式市況の動向などを勘案して弾力的に変更します。</p>
組入制限	<p>■株式への投資割合には、制限を設けません。</p> <p>■外貨建資産への投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。</p>
分配方針	<p>■年2回（原則として毎年4月および10月の22日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配を行います。</p> <p>■分配対象額は、利子・配当等収入と売買益（評価益を含みます。）等の合計額とします。</p> <p>■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。</p> <p>※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p>

受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは日本の取引所に上場している株式を主要投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行うことを基本とします。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。

 三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1

<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ

お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976

受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

三井住友・株式アナライザー・オープン

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

■ 最近5期の運用実績

決算期	基準価額			(参考指数) TOPIX (東証株価指数、配当込み)		株式組入率 比率	純資産額
	(分配落)	税金 分配	込金 期騰落	中率	騰落 中率		
50期 (2022年10月24日)	円 9,348	円 0	% △ 6.5	3,087.22	% 0.4	% 97.6	百万円 1,620
51期 (2023年4月24日)	10,038	70	8.1	3,380.89	9.5	95.4	1,663
52期 (2023年10月23日)	10,615	320	8.9	3,756.35	11.1	96.4	1,701
53期 (2024年4月22日)	12,290	380	19.4	4,519.02	20.3	97.0	1,939
54期 (2024年10月22日)	12,022	370	0.8	4,553.88	0.8	97.8	1,887

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

※指数の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

※参考指数は市場の動きを示す目的で記載しており、当ファンドが当該参考指数を意識して運用しているわけではありません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		(参考指数) TOPIX (東証株価指数、配当込み)		株式組入率 比率
	騰落率	騰落率			
(期首) 2024年4月22日	円 12,290	% —	4,519.02	% —	% 97.0
4月末	12,646	2.9	4,656.27	3.0	95.3
5月末	12,855	4.6	4,710.15	4.2	95.3
6月末	13,097	6.6	4,778.56	5.7	96.4
7月末	12,851	4.6	4,752.72	5.2	98.4
8月末	12,511	1.8	4,615.06	2.1	98.1
9月末	12,366	0.6	4,544.38	0.6	97.4
(期末) 2024年10月22日	12,392	0.8	4,553.88	0.8	97.8

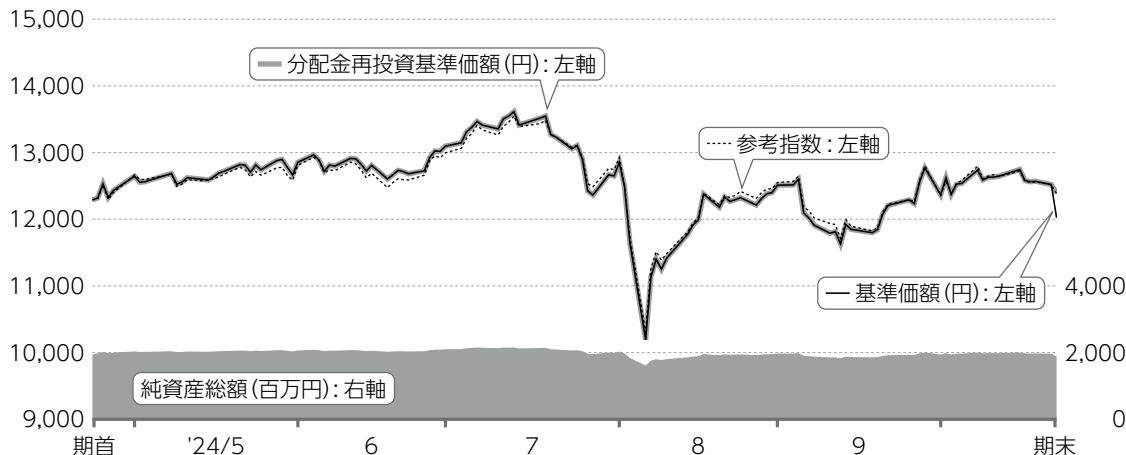
※期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

※株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

1 運用経過

基準価額等の推移について(2024年4月23日から2024年10月22日まで)

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額および参考指数は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期首	12,290円
期末	12,022円 (既払分配金370円(税引前))
騰落率	+0.8% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの参考指数は、TOPIX(東証株価指数、配当込み)です。

※指数の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

基準価額の主な変動要因(2024年4月23日から2024年10月22日まで)

日本の取引所に上場している株式を主要投資対象とし、徹底したボトム・アップ・アプローチにより、日本経済再生のけん引役になるとと思われる企業の株式に投資を行いました。また、純資産総額の30%を上限として、海外の優良企業の株式の組入れも行い、対円での為替ヘッジを行いました。

上昇要因

- 国内企業の業績および資本効率の改善が続くと期待されたこと
- フジクラ、三菱重工業、日立製作所などの株価が上昇したこと
- サービスナウ、中国蒙牛乳業、リジェネロン・ファーマシューティカルズなどの株価が上昇したこと

下落要因

- 日銀による利上げを受けて米ドル安・円高が進行したことに加え、米国景気の悪化が警戒されたこと
- 東洋炭素、ダイヘン、ディスコなどの株価が下落したこと
- ウォルト・ディズニー・カンパニー、マイクロチップ・テクノロジーの株価が下落したこと

投資環境について(2024年4月23日から2024年10月22日まで)

国内株式市場は上昇しました。

期初から6月下旬にかけては、国内企業の慎重な業績見通しが重石となり、上値の重い展開となりました。

7月上旬に、米ハイテク株高や米利下げ期待などが支えとなり、TOPIXは史上最高値を更新しました。しかし、日銀の利上げへの警戒感、米景気後退懸念の高まり

から、米ドル安・円高が加速し、8月上旬に大幅下落しました。

その後、日銀の追加利上げ懸念の後退や米景気に対する過度な警戒が和らいだことから持ち直したものの、国内政局を巡る不透明感が株価の重石となり、期末にかけて上値の重い展開となりました。

ポートフォリオについて(2024年4月23日から2024年10月22日まで)

国内株式

●業種配分

組入比率を引き上げた業種および個別銘柄

・精密機器

半導体製造製品の中期的な業績成長が見込まれるHOYA、産業用ガス検知警報機の業績拡大が見込まれる理研計器を組入れ

・化学

半導体市場向け電子材料の中期的な業績成長が見込まれる信越化学工業、三菱瓦斯化学などを組入れ

・医薬品

将来の収益貢献が期待できる充実した

新薬候補群を有する大塚ホールディングスや中外製薬を組入れ

組入比率を引き下げた業種および個別銘柄

・卸売業

業績モメンタム(勢い)が鈍化すると考えた三菱商事、株価が上昇した丸紅などを売却

・輸送用機器

二輪事業の業績モメンタムが鈍化すると考えた川崎重工業、業績下振れが懸念されたマツダなどを売却

・電気機器

半導体製造装置の受注モメンタムが鈍化すると考えた日本電子、株価が上昇した富士通などを売却

外国株式

外国株式は期末時点で8銘柄を保有しています。また、対円での為替ヘッジを行いました。

期中は売買を行っておりません。

ベンチマークとの差異について(2024年4月23日から2024年10月22日まで)

基準価額と参考指数の騰落率対比

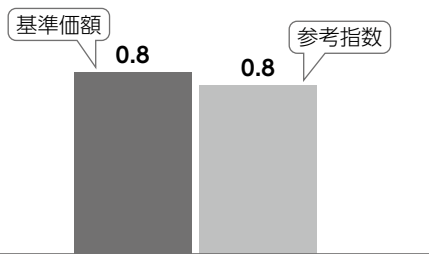
(%)
2.0

1.5

1.0

0.5

0.0



※基準価額は分配金再投資ベース

当ファンドは運用の指標となるベンチマークはありませんが、参考指数としてTOPIX(東証株価指数、配当込み)を設けています。

記載のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

分配金について(2024年4月23日から2024年10月22日まで)

(単位:円、1万口当たり、税引前)

項目	第54期
当期分配金	370
(対基準価額比率)	(2.99%)
当期の収益	101
当期の収益以外	268
翌期繰越分配対象額	3,579

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

期間の1万口当たりの分配金(税引前)は、基準価額水準等を勘案し、左記の通りといたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

2 今後の運用方針

世界景気については、一部の地域・国で減速の動きが見られるものの、FRB(米連邦準備制度理事会)による利下げや中国における景気刺激策などが下支えし、底堅く推移すると想定します。

国内株式市場は、短期的には世界景気、国内の政局および企業業績の先行きを見極めようとする動きから、もみ合う展開が続く可能性はあるものの、中期的には上昇基調が続くと予想します。賃金と物価上昇によるデフレ脱却、国内企業の業績および資本効率改善、日本固有の変化に着目した投資資金の流入などが中期的に株式市場を支え则认为します。

業種配分では、持続的な収益成長が見込まれる業種、バリュエーション(投資価値評価)面で投資魅力度が高いと考えられる業種などをオーバーウェイトとします。一方で、相対的に業績回復ペースが鈍いと考えられる業種などをアンダーウェイトとします。

銘柄選択では、業績モメンタム、中長期の業績をけん引する成長テーマの有無、株主還元姿勢などの観点で投資魅力度が高いと考えられる銘柄を選好する方針です。

外国株については、中長期的に業績拡大が見込まれ、日本企業にない投資機会を持つ銘柄を選好します。

3 お知らせ

約款変更について

該当事項はございません。

1万口当たりの費用明細(2024年4月23日から2024年10月22日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	69円	0.551%	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数/年日数) 期中の平均基準価額は12,558円です。
(投信会社)	(31)	(0.248)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
(販売会社)	(31)	(0.248)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(7)	(0.055)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	10	0.078	売買委託手数料=期中の売買委託手数料/期中の平均受益権口数 売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(10)	(0.078)	
(先物・オプション)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税=期中の有価証券取引税/期中の平均受益権口数 有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(-)	(-)	
(公社債)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(d) その他費用	1	0.008	その他費用=期中のその他費用/期中の平均受益権口数
(保管費用)	(0)	(0.001)	保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.002)	監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用
(その他)	(1)	(0.005)	その他:信託事務の処理等に要するその他費用
合計	80	0.637	

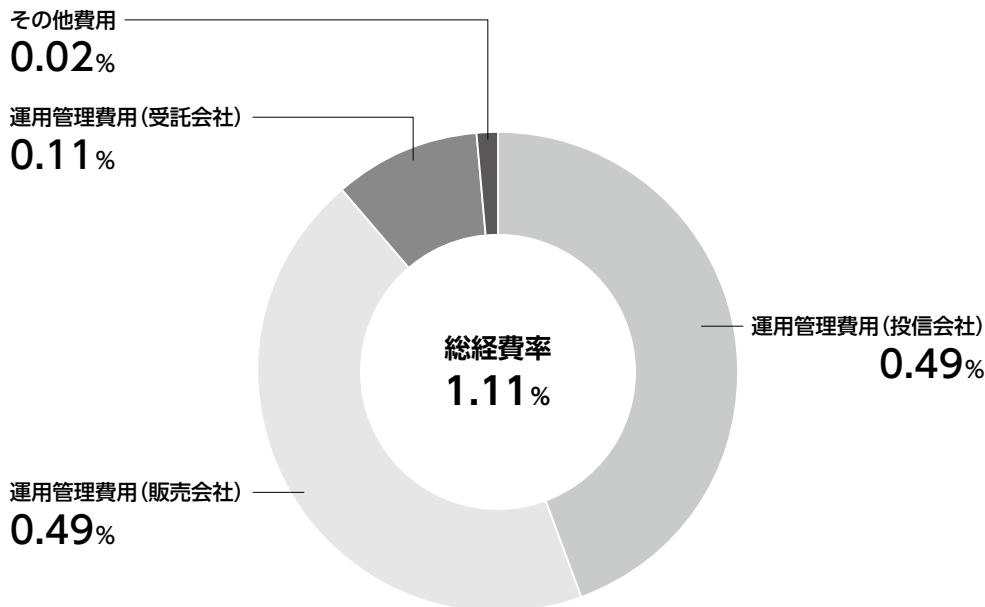
※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。



参考情報 総経費率(年率換算)



※各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

※各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。

※上記の前提条件で算出しているため、「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。なお、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率換算)は1.11%です。

■ 当期中の売買及び取引の状況 (2024年4月23日から2024年10月22日まで)

株 式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	上 場	千株 404.7 (54.4)	千円 1,041,779 (-)	千株 571.4	千円 1,087,387

※金額は受渡し代金。

※ () 内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

■ 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

(2024年4月23日から2024年10月22日まで)

項 目	当 期
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	2,129,167千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	1,959,238千円
(c) 売 買 高 比 率(a) / (b)	1.08

※ (b) は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

※外貨建資産については、(a)は各月末（ただし、決算日の属する月については決算日）の日本の対顧客電信売買相場の仲値で換算した邦貨金額の合計、(b)は各月末の同仲値で換算した邦貨金額合計の平均です。

■ 利害関係人との取引状況等 (2024年4月23日から2024年10月22日まで)

(1) 利害関係人との取引状況

区 分	買付額等			売付額等		
	A	B	$\frac{B}{A}$	C	D	$\frac{D}{C}$
株 式	百万円 1,041	百万円 64	% 6.2	百万円 1,087	百万円 78	% 7.2

(2) 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
(a) 売 買 委 託 手 数 料 総 額	1,556千円
(b) う ち 利 害 関 係 人 へ の 支 払 額	110千円
(c) (b) / (a)	7.1%

利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドに係る利害関係人とは、SMB C日興証券株式会社です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況

(2024年4月23日から2024年10月22日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細 (2024年10月22日現在)

(1) 国内株式

銘柄	期首(前期末)	期	末
	株数	株数	評価額
	千株	千株	千円
水産・農林業 (1.0%)			
ニッスイ	9.9	18.6	17,009
鉱業 (0.7%)			
INPEX	10.8	6.2	12,369
建設業 (4.5%)			
ウエストホールディングス	3	5.5	12,188
大成建設	1.5	0.5	3,033
鹿島建設	4.2	1.4	3,623
東鉄工業	2.1	1	3,270
住友林業	0.8	2	12,580
積水ハウス	—	6.4	23,974
九電工	1.7	3.1	18,832
食料品 (0.9%)			
山崎製パン	1.7	—	—
カルビー	2.7	1.2	4,100
キッコーマン	—	2.9	4,892
東洋水産	1.6	0.7	6,139
パルプ・紙 (0.3%)			
レンゴー	3.5	5.6	5,249
化学 (7.2%)			
レゾナック・ホールディングス	2.5	1.3	4,738
大阪ソーダ	1.1	4.9	8,501
信越化学工業	1.5	6.4	37,555
三菱瓦斯化学	—	5.8	15,523
三井化学	1.2	—	—
住友ベークライト	2.1	1.1	4,370
中国塗料	7.3	10.8	22,615
ライオン	—	10.7	18,013
東洋合成工業	0.6	0.6	4,278
ニフコ	0.9	—	—
ユニ・チャーム	3	1.4	6,830
医薬品 (5.1%)			
中外製薬	2.6	4.9	33,736
エーザイ	0.9	—	—
ロート製薬	1.1	—	—
第一三共	5.5	4.4	21,555
大塚ホールディングス	—	3.5	31,524
石油・石炭製品 (0.8%)			
出光興産	19.3	—	—
ENEOSホールディングス	—	16.8	12,967
ゴム製品 (0.2%)			
横浜ゴム	4.1	0.9	2,820
ガラス・土石製品 (0.8%)			
東洋炭素	3	2.7	14,256

銘柄	期首(前期末)	期	末
	株数	株数	評価額
鉄鋼 (-)			
日本製鉄	2.9	—	—
共英製鋼	1.5	—	—
非鉄金属 (1.9%)			
住友電気工業	2.9	—	—
フジクラ	—	6.3	31,865
機械 (5.5%)			
アマダ	4.4	—	—
ディスコ	0.4	0.3	11,796
平田機工	0.6	—	—
タツモ	2	4.9	17,395
クボタ	2.7	—	—
荏原製作所	0.9	—	—
ダイフク	1.7	—	—
CKD	2.6	—	—
アマノ	3.4	3.4	14,694
三菱重工業	14.1	23.3	50,316
電気機器 (16.3%)			
イビデン	0.5	0.6	2,868
ミネベアミツミ	2.7	1.2	3,274
日立製作所	3.6	19.1	74,451
富士電機	1	—	—
シンフォニア テクノロジー	1.9	3.2	16,320
明電舎	—	3.7	14,615
ダイヘン	2.8	0.5	3,110
日本電気	1.4	1.3	17,283
富士通	5.3	—	—
ルネサスエレクトロニクス	4.6	0.9	1,798
ソニーグループ	3.4	16	43,056
TDK	1.7	9.3	16,753
古野電気	2.3	—	—
アドバンテスト	2.2	3.1	24,676
エスベック	2.3	—	—
キーエンス	0.6	0.5	32,750
日置電機	0.4	0.4	3,452
レーザーテック	0.3	—	—
山一電機	1.6	—	—
日本電子	2.7	—	—
ニチコン	2.4	—	—
東京エレクトロン	1.1	1.1	25,289
輸送用機器 (7.0%)			
デンソー	7.2	7.6	15,773
川崎重工業	6.1	1.3	7,841
トヨタ自動車	26	26	66,170
武蔵精密工業	—	5.3	10,335

三井住友・株式アナライザー・オープン

銘柄	期首(前期末)		期末	
	株数	株数	評価額	評価額
マツダ	7.6	2.3	2,420	
スズキ	4.2	11.2	16,693	
豊田合成	1.7	—	—	
精密機器 (3.5%)				
テルモ	5.4	4.5	13,119	
理研計器	—	2.3	9,947	
HOYA	—	1.8	36,198	
その他製品 (1.8%)				
フルヤ金属	—	1.8	7,101	
アシックス	—	2.9	7,843	
リンテック	3.2	4.7	15,134	
任天堂	3	—	—	
電気・ガス業 (1.9%)				
関西電力	3.8	—	—	
九州電力	8.1	15.4	25,417	
大阪瓦斯	7.5	2.5	7,915	
陸運業 (3.0%)				
東武鉄道	2.3	—	—	
東急	3.6	8.2	15,063	
小田急電鉄	2.6	—	—	
京成電鉄	1.7	—	—	
西日本旅客鉄道	1.2	—	—	
セイノーホールディングス	8.5	15	35,977	
海運業 (1.0%)				
日本郵船	3.4	3.2	16,956	
情報・通信業 (6.9%)				
フィックスターズ	3.4	3	4,428	
インターネットイニシアティブ	6.4	4.2	12,043	
LINEヤフー	9.4	50.1	21,177	
大塚商会	4	1.5	5,071	
日本電信電話	167.6	—	—	
KDDI	—	9.5	44,944	
ソフトバンクグループ	2.9	3.3	29,746	
卸売業 (2.9%)				
円谷フィールズホールディングス	2.6	3.4	7,660	
マクニカホールディングス	1.3	1.7	3,331	
伊藤忠商事	2.9	3.8	28,899	
丸紅	7.7	—	—	
豊田通商	1	—	—	
三菱商事	11.2	2.6	7,322	
ミスミグループ本社	4	0.7	1,736	
小売業 (4.4%)				
エービーシー・マート	4.8	0.6	1,824	
ビックカメラ	10.3	2.3	3,852	
三越伊勢丹ホールディングス	3	0.8	1,770	

銘柄	期首(前期末)		期末	
	株数	株数	評価額	評価額
スギホールディングス	6.1	15.1	40,528	
イオン	4.2	1.7	6,443	
ファーストリテイリング	0.4	0.4	20,572	
銀行業 (10.1%)				
めぶきフィナンシャルグループ	—	29.9	17,138	
ゆうちょ銀行	15.1	—	—	
三菱UFJフィナンシャル・グループ	32.2	48.8	77,665	
りそなホールディングス	—	16.6	16,674	
三井住友トラストグループ	8	8	26,824	
群馬銀行	23	7.2	6,296	
七十七銀行	5.5	5	19,900	
北洋銀行	21.5	18.5	7,492	
証券・商品先物取引業 (1.8%)				
SBIホールディングス	4.6	2.2	7,282	
野村ホールディングス	27.9	25.3	19,756	
東海東京フィナンシャル・ホールディングス	37.5	8	3,872	
保険業 (4.6%)				
第一生命ホールディングス	5.5	3.5	13,408	
東京海上ホールディングス	6.8	11.7	65,192	
その他金融業 (-)				
日本取引所グループ	4.8	—	—	
不動産業 (0.9%)				
大東建託	1	—	—	
霞ヶ関キャピタル	—	1	15,090	
三井不動産	12.8	—	—	
サービス業 (5.3%)				
エス・エム・エス	—	4.7	9,794	
カカコム	—	3.4	8,073	
オリエンタルランド	5.3	3.2	11,452	
リクルートホールディングス	3.9	4.1	39,548	
日本郵政	7.9	—	—	
セコム	—	4.2	22,096	
合計	株数・金額	千株	千株	千円
		768.7	656.4	1,711,133
	銘柄数<比率>	117銘柄	99銘柄	<90.7%>

※銘柄欄の（ ）内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

※< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

三井住友・株式アナライザー・オープン

(2) 外国株式

銘柄	株数	期首(前期末)	期末		業種等	
		株数	株数	評価額		
				外貨建金額		邦貨換算金額
(アメリカ)	百株	百株	千アメリカ・ドル	千円		
SERVICENOW INC	1.36	1.36	124	18,826	ソフトウェア・サービス	
ALPHABET INC-CL A	9.41	9.41	154	23,272	メディア・娯楽	
MICROCHIP TECHNOLOGY INC	16.04	16.04	120	18,177	半導体・半導体製造装置	
REGENERON PHARMACEUTICALS	1.67	1.67	161	24,380	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
WALT DISNEY CO/THE	6.48	6.48	62	9,437	メディア・娯楽	
MICROSOFT CORP	3.89	3.89	162	24,556	ソフトウェア・サービス	
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	38.85 6銘柄	38.85 6銘柄	787 —	118,651 <6.3%>	
(香港)	百株	百株	千香港・ドル	千円		
ANTA SPORTS PRODUCTS LTD	64	64	547	10,622	耐久消費財・アパレル	
CHINA MENGNIU DAIRY CO	200	200	318	6,173	食品・飲料・タバコ	
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	264 2銘柄	264 2銘柄	866 —	16,796 <0.9%>	
合計	株数・金額 銘柄数<比率>	302.85 8銘柄	302.85 8銘柄	— —	135,447 <7.2%>	

※邦貨換算金額は、期末の時価を日本の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

※〈 〉内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率。

※銘柄コードの変更等、管理上の都合により同一銘柄であっても別銘柄として記載されている場合があります。

■ 投資信託財産の構成

(2024年10月22日現在)

項目	期	末
	評価額	比率
株式	千円 1,846,581	% 94.0
コール・ローン等、その他	118,429	6.0
投資信託財産総額	1,965,011	100.0

※期末における外貨建資産（149,790千円）の投資信託財産総額（1,965,011千円）に対する比率は7.6%です。

※外貨建資産は、期末の時価を日本の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=150.74円、1香港・ドル=19.39円です。

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2024年10月22日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	2, 110, 091, 119円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	103, 267, 968
株 式 (評 価 額)	1, 846, 581, 875
未 収 入 金	145, 105, 122
未 収 配 当 金	15, 136, 154
(B) 負 債	222, 787, 270
未 払 金	153, 291, 890
未 払 収 益 分 配 金	58, 083, 137
未 払 解 約 金	365, 933
未 払 信 託 報 酬	11, 002, 397
そ の 他 未 払 費 用	43, 913
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	1, 887, 303, 849
元 本	1, 569, 814, 532
次 期 繰 越 損 益 金	317, 489, 317
(D) 受 益 権 総 口 数	1, 569, 814, 532口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (C / D)	12, 022円

※当期における期首元本額1,577,799,030円、期中追加設定元本額35,442,768円、期中一部解約元本額43,427,266円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額（元本の欠損）となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 損益の状況

(自2024年4月23日 至2024年10月22日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	19, 225, 886円
受 取 配 当 金	19, 128, 762
受 取 利 息	96, 998
そ の 他 収 益 金	126
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	7, 920, 130
売 買 益	207, 190, 055
売 買 損	△199, 269, 925
(C) 信 託 報 酬 等	△ 11, 165, 928
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	15, 980, 088
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	494, 106, 758
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△134, 514, 392
(配 当 等 相 当 額)	(109, 847, 322)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△244, 361, 714)
(G) 合 計 (D + E + F)	375, 572, 454
(H) 収 益 分 配 金	△ 58, 083, 137
次 期 繰 越 損 益 金 (G + H)	317, 489, 317
追 加 信 託 差 損 益 金	△134, 514, 392
(配 当 等 相 当 額)	(109, 847, 322)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△244, 361, 714)
分 配 準 備 積 立 金	452, 003, 709

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※株式投信の信託報酬等には消費税等相当額が含まれており、公社債投信には内訳の一部に消費税等相当額が含まれています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※分配金の計算過程は以下の通りです。

	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	11, 318, 176円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	4, 661, 912
(c) 収益調整金	109, 847, 322
(d) 分配準備積立金	494, 106, 758
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	619, 934, 168
1 万 口 当 た り 当 期 分 配 対 象 額	3, 949. 09
(f) 分配金	58, 083, 137
1 万 口 当 た り 分 配 金	370

■ 分配金のお知らせ

1 万 口 当 た り 分 配 金 (税 引 前)	当 期
	370円

※分配金は、分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は全額「普通分配金」となり課税されます。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合は下回る部分が「元本払戻金（特別分配金）」となり非課税、残りの部分が「普通分配金」となります。

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。